

10月30日(土)・大会1日目 10:40~12:10 (組織論レビュー【3】会場) (90分)

●組織論レビュー セッション【3】

「ステータス研究の経営学的意義とその課題
—組織論・戦略論研究の新たなる可能性—」

* 金柄式（一橋大学大学院 経営管理研究科 博士後期課程）

* 代表報告者

[概要]

組織論や戦略論の分野でステータス研究が盛んに行われるようになった。ステータス研究は、社会階層におけるアクターの相対的な位置からそのアクターの行動、戦略、成果を説明しようとするものである。欧米では、社会学や経営学の領域において盛んに研究されており、主要な学術誌に関連論文が多数掲載されている。一方、日本の経営学においては、まだ、ステータス研究の導入という点では、まだ目立った文献が表れておらず、経営学における位置づけも十分に伝わっていない。

本発表では、既存のステータス研究を体系的に整理、分類し、かつそれらの課題点を提示する。これにより、既存のステータス研究の貢献点と課題点、そして今後のステータス研究の方向性をより明確にする。

[参加者へのメッセージ]

我々が社会生活を送るにあたって、ランキングや序列を始め、ステータスに関わる事柄を数多く見かけます。こうした流れから、経営学では企業組織のステータスに焦点を当てた研究が急速に進んでいます。しかし、既存のステータス研究は、ステータスの定義や概念整理が一様でないまま様々な実証研究が行われており、ステータスの影響を十分に理解することができません。

当セッションでは、経営学におけるステータス研究の歴史的な背景、ステータスが持つ機能、そしてステータス研究の貢献点と限界点等をレビューします。それにより、ステータス研究への理解を深めるとともに、新しい研究の可能性を皆様と共に考えることを目的としています。